

# 2020年度(2021年3月期)の概況

シャープ株式会社及び連結子会社 3月31日に終了した各連結会計年度

## 2020年度の概況

世界経済は、COVID-19対策として各国でロックダウンなどの規制が実施された影響により、第1四半期に急速に悪化しました。第2四半期には、各国で経済活動が順次再開され、徐々に回復が進みましたが、第3四半期後半以降COVID-19の再拡大に伴い各国で規制の再強化や延長が実施され、年度末にかけては半導体隘路なども発生しました。

シャープは、こうした目まぐるしい事業環境の変化に柔軟に対応し、従業員の安全と業績の確保に努めました。その結果、業績を順調に回復させることができ、営業利益は1.6倍、最終利益は3.9倍となるなど、大幅な増益となりました。

2020年度の売上高は、スマートライフ、8Kエコシステム、ICTの3セグメントともに増加し、2兆4,259億円(前年度比7.2%増)となりました。営業利益は、ICTが減少したものの、スマートライフと8Kエコシステムが増加し、831億円(前年度比61.5%増)となりました。経常利益は631億円(前年度比25.9%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は、532億円(前年度比288.0%増)となりました。

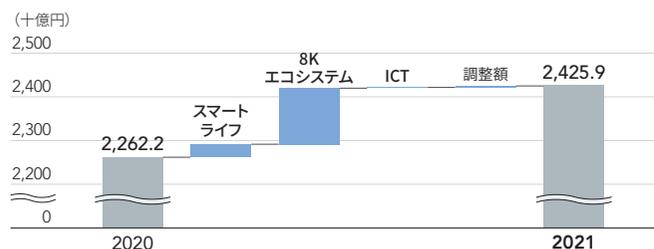
あわせて、フリー・キャッシュ・フローの創出に努め、有利子負債を前年度末に対し523億円削減するなど、財務体質の改善を進めました。加えて、種類株式を全て取得・消却するなど、株主価値の向上を図りました。

なお、年間配当について、財務状況や今後の事業展開などを総合的に勘案し、前年度より1株あたり12円の増配となる30円の配当を実施しました。

- 世界経済はCOVID-19が収束せず、年度末にかけては半導体隘路なども発生
- 目まぐるしい事業環境の変化に柔軟に対応し、業績は順調に回復、大幅な増益を達成（営業利益;1.6倍、最終利益;3.9倍）
- フリー・キャッシュ・フローの創出に努め、有利子負債を削減するなど、財務体質の改善を進める
- 種類株式の全数取得・消却など、株主価値の向上も図る

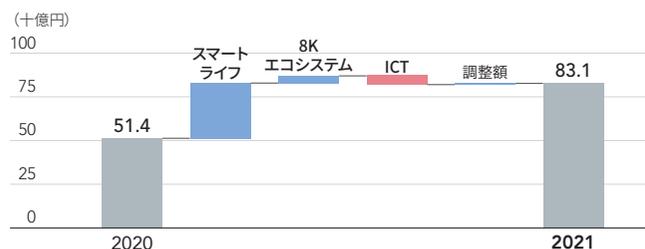
### 売上高 増減分析

#### セグメント別

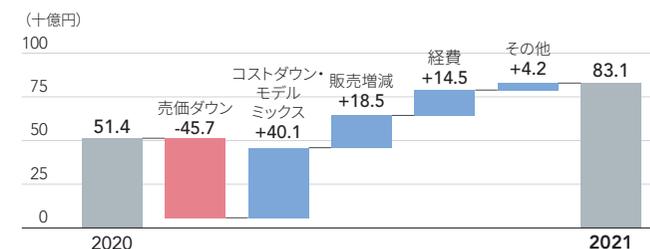


### 営業利益 増減分析

#### セグメント別

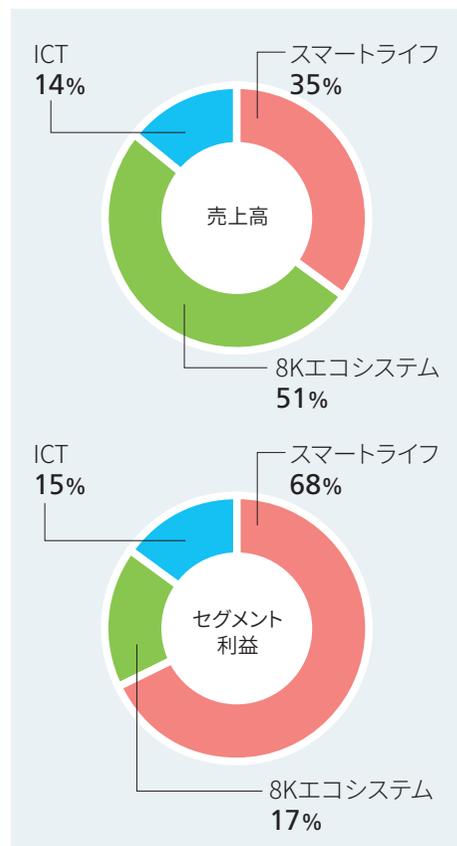


#### 要因別



# 2020年度(2021年3月期)の概況

## セグメント別売上高・営業利益

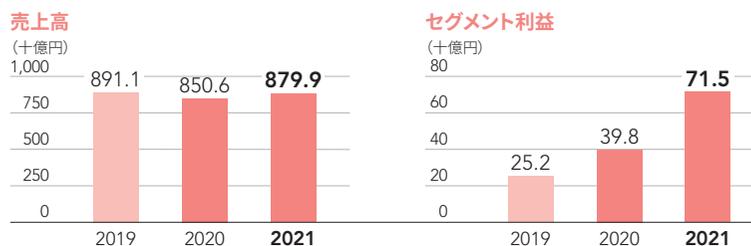


・売上高は、セグメント間の内部売上高または振替高を含んでおり、円グラフの売上高構成比は、これを基に算出したものです。

・セグメント利益はセグメント間取引の調整前の金額です。円グラフのセグメント利益構成比は、これを基に算出したものです。

・2021年3月31日に終了した連結会計年度より、従来「スマートライフ」セグメントに含めていたCOCOROサービス事業を、「8Kエコシステム」セグメントに含めて表示しています。これに伴い、2020年3月31日に終了した連結会計年度についても、変更後のセグメント区分に基づき表示しています。

### スマートライフ



冷蔵庫、過熱水蒸気オープン、電子レンジ、小型調理機器、エアコン、洗濯機、掃除機、空気清浄機、扇風機、除湿機、加湿機、電気暖房機器、プラズマクラスターイオン発生機、理美容機器、電子辞書、電卓、電話機、ネットワーク制御ユニット、太陽電池、蓄電池、カメラモジュール、センサモジュール、近接センサ、埃センサ、ウエハファウンドリ、CMOS・CCDセンサ、半導体レーザー等

#### 2020年度の業績(対2019年度)

国内のプラズマクラスター機器が大幅に伸長するとともに、洗濯機や調理家電などの販売も増加しました。デバイス事業についても、堅調な顧客需要を着実に取り込み、スマートライフの売上高は増収となりました。セグメント利益は、売上が増加したことに加え、コストダウンや白物家電の高付加価値化が進んだことなどにより、増益となりました。

### 8Kエコシステム

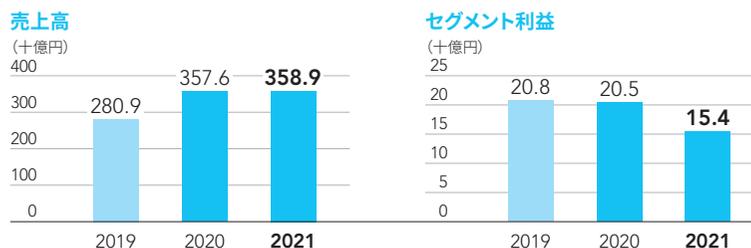


液晶カラーテレビ、ブルーレイディスクレコーダー、オーディオ、ディスプレイモジュール、車載カメラ、デジタル複合機、インフォメーションディスプレイ、業務プロジェクター、POSシステム機器、FA機器、各種オプション・消耗品、オフィス関連ソリューション・サービス、各種ソフトウェア等

#### 2020年度の業績(対2019年度)

COVID-19の影響が大きかった車載向けパネルや複合機の販売は減少したものの、PC・タブレット向けパネルや大型パネル、完成品のテレビの販売が増加したことから、8Kエコシステムの売上高は増収となりました。セグメント利益は、車載向けパネルや複合機の販売が減少した影響があったものの、売上が増加し、コストダウンも進んだことなどから、増益となりました。

### ICT



携帯電話機、パソコン等

#### 2020年度の業績(対2019年度)

通信事業ではマーケットニーズを捉えた商品の展開により伸長し、パソコン事業ではGIGAスクールをはじめとする教育向けが増収となったことなどから、ICTの売上高は増収となりました。セグメント利益は、通信事業でミドルレンジモデルの比率が増加した影響などがあり、減益となりました。

2022年3月31日に終了する連結会計年度より、「スマートライフ」「8Kエコシステム」及び「ICT」のセグメントの3区分を、「スマートライフ」「8Kエコシステム」「ICT」「ディスプレイデバイス」及び「エレクトロニックデバイス」の5区分に変更しています。(P.6をご参照ください。)